

●鶴形のまちづくりから 旅行ライターのアドバイスをまちづくりの参考に



鶴形地区では、住民が主体になって平成16年7月、「鶴形地域まちづくり協議会」を結成。これまで、地域の子どもからお年寄りまで参加できる地域イベントを通じた世代間交流や特産の鶴形そばを生かした地域づくりの研究などさまざまな活動を行っています。

鶴形地域まちづくり協議会では、外から見た視点をまちづくりに生かそうと、能代PR大使である旅行ライターの三堀裕雄さんを招待し、昼は地域の人々が鶴形を案内、夜は公民館で講演会を行いました。

講演会では、「まちづくりには、地域を良くしたいという気持ちが欠かせない」としたうえで、「毎年一つの目標を決め少しずつでも取り組んでいくこと、それにより10年後には大きな成果につながっていく」と述べました。そして「鶴形・常盤を結んでいた渡し船を復活させ、子どもたちに経験させる」など実際、鶴形を歩いて気がついた点をアドバイスとして紹介しました。



講演会後は、みんな郷土料理を囲んで、今後のまちづくり談議に花を咲かせました。

新「能代市」の誕生に向けて!

18年3月、二ツ井町との合併に向け、それぞれの歴史、文化、行事、市民活動、まちづくりなどを紹介するコーナーを設けることにしました。お互いの住民同士の考えや目指すものを知り、理解や共感を一層深めていきたいと思えます。月1回のペースで二ツ井町を紹介していきます。

第1回「美しい環境を守るために」二ツ井町の住民活動

二ツ井町は「みどりのフロンティア」をまちづくりの基本理念とし、事業全般に環境重視を取り入れた、町独自の「環境管理システム」を実施しています。特色ある事業として、個人宅への浄化槽の設置を町として行っているほか自転車を利用したまちづくりなどを行っています。

また、天ぷら油の回収には婦人会が深くかかわるなど、美しい環境を守るため住民が先進的に取り組んでいます。



二ツ井町連合婦人会石井会長からお話を伺いました。最初、婦人会の活動は、使用済みの天ぷら油を再利用するせっけんづくりから始まりました。新しく生まれ変わったせっけんは、ズックやユニホームが真っ白になるなど好評です。

現在は町からの協力依頼で、婦人会が中心となり、ディーゼル車用燃料として活用するための回収活動も行っています。使用済み天ぷら油の再利用は、二酸化炭素などの排出が少ない環境にやさしい燃料の確保、廃油ごみの減量、河川の水質汚濁防止につながっています。使用済み天ぷら油の回収は、新たな燃料使用としての動きにも結びつき、できれば能代にも広がってほしいと思います。

美しい自然を次世代に引き継いでいくためにも、合併を機に新「能代市」全体で環境を守っていくことができればいいと思います。

のーろ道遙

歴史と民俗のあいだ

馬の絵(三) 「上母体・八幡神社」

上母体の八幡神社は中世末期に、檜山安東氏の再建にかかわる古い歴史を持ちます。檜山城の鬼門(東北方向)にあつて鬼の出入りする門を制する役を担っていたものと思われまふ。

ここにもたくさんの絵馬が奉納されています。貞享二年(一六八五)に多賀谷隆経が奉納した白鷹・黒鷹の二枚は市の有形民俗文化財に指定されています。左にあげた絵馬は、明治二十九年に豊島後素が描き、小杉山兵蔵が奉納したものです。前回紹介した羽立八幡神社の絵馬より早い作品です。画題は川中島の合戦でしょう。戦国時代に越後現新潟県の上杉謙信と甲斐(現山梨県)の武田信玄は二十四年間にわたつて五回の大合戦をしました。織田信長が天下を取る

以前のことで、この戦いで両者が精力を使い果たして、信長の天下統一は容易になりました。この戦いは武田氏の事績を書いた『甲陽軍鑑』などから、物語的にもはやされ、この絵馬にもその影響が見られます。上杉謙信の「謙信」の名は、仏道に入つてからのものです。従つて左の絵の法衣姿が謙信で、右が信玄です。蠹仙も後素も武者絵を学んだためこのような絵も描きましたが、一般世間でも軍記物は小説や講談などで語られ、身近な話題でした。(古内)

